

いたちかわらばん

通刊 89 号 鮎川・狹川 / 川原番・瓦版 (22 秋号)



【版画 宗森英夫】

上郷市民の森展望台見た富士山

読者からのたよ

楽しみにしている版画！！

いたちかわら版を読んで、毎度楽しみにしているのは版画です。私は港南区の住人なのでどの辺りなのかわかりません。ちょっと一言添えてもらえると有り難いです。「故郷の川への思い」では、上流では千曲川(長野県)、下流(新潟県)では信濃川という 2 つの名前を持つ川の一文が目にとまりました。以前、関西を旅行した時、バスガイドから、琵琶湖を起点に大阪湾に注ぐ淀川は上流(滋賀県)では瀬田川、中流(京都府)では宇治川、下流(大阪府)では淀川の 3 つの名前を持つと説明を受けたのを思い出しました。面白いので調べてみたら日本ではほかにいくつかありました。ところが世界ではナイル川、アマゾン川など国が変わっても名前が変わっていませんでした。

港南区 茂澄 孝

ご質問の表紙の版画について

位置は、JR 本郷台駅から東側に行くと県立柏陽高校がありその裏側を流れるいたち川に架かる城山橋から上流を眺めた情景です。

川の名前は地名を付けているのが一般的ですが、

栄区には、「イタチ川」「タヌキ川」「サルタ川」など動物の名前が付いています。

川の中の石や岩は？

かわら版を、どうもありがとうございました

いたち川を散歩していて気が付くのは、読者だよりも書かれています樹木や花のネームプレートが汚れて読めなかったり、なかったりします。ぜひ改修してや、追加していただくとありがたいですね。

質問ですが、いたち川の中の石や岩はとても大きいものが多いのですが、これらは上流から運ばれてきたものですか？ 不思議に思います。

若原 俊彦

ご質問のネームプレートについて

設置は 20 年～30 年前に沿道の小学校の子供たちが総合学習の授業で付けたもので、子供たちの思い出があることから現在に至っています。今後調査をしながら対処方法を検討していきたいと思ひます。

川の中にある石について

本来その川にある石を使うのが良いのですが採取する石は無いため他から持ち込んだものです。

その石の役目は水質を改善するため水流によって自浄作用を促すために設置されたもので、平坦な川底に変化を付けて流速を速めたり深みを作ることにより水温を下げて生物が生息しやすくしています。

☆上郷市民の森ウォーキング☆

いたち川中央部にある上郷市民の森へ散策に行きませんか。この市民の森は、小高い丘となって富士山を眺めることができ、秋分、春分の日頃にはダイヤモンド富士が眺めることができます。

今回は、ウォーキングしながら樹木のネームプレートを調査したいと思います。

日 時：令和 4 年 10 月 25 日(火)

集合場所：天神橋バス停

天神橋→いたち川川辺の道(徒歩)→扇橋水辺(トイレ休憩)→稲荷森水辺→中坊の水辺→石原の水辺→上郷市民の森山頂(昼食)→みずき広場(トイレ休憩)→上郷車庫前バス停(解散)

*雨天中止。中止の場合は、前日にご連絡し

集合時間：10:00

参加費：100円(保険料等)

持ち物：飲み物、雨具、昼食 マスク着用

参加人数：20名(先着順)

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで

住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、令和4年10月17日(月)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19

(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127

(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp

栄区役所区政推進課企画調整係

※内容については、和久井(045-892-6767)まで

「上郷市民の森」〜鎌倉殿に關わるいたち川歴史探訪〜

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を、関心を持って面白く観ている方も多と思います。

鎌倉時代、鎌倉と「山之内庄本郷」(現在の横浜市栄区本郷台一帯)は密接な関係にあり、鎌倉幕府の米など食糧の生産拠点であり兵馬(戦闘資材)調達と、街道交通の要衝として重要な役割を果たしていたとされています。まさに兵站基地(へいたんきち)だったということ。源頼朝が功臣の供養のため大きな寺を建立したこと、この寺の後身が現在の證菩提寺です。幕府の鬼門封じの位置にあり、文字通り寺を軸に「いざ鎌倉」に備えていたわけ。

證菩提寺敷地は広大で東側は山手学院入口付近、西側は堀淵橋(扇橋の水辺)南側は上郷小学校付近、北側は竹後大道(元大橋付近)で現在の「上郷市民の森」はその中央に位置しています。

兼好法師が当地を訪れ「相模の国 いたちかわ」という所に於て此処の名を句の上にすえて旅の心を」と題し詠んだとされています。(いたちかわらばん72号参照)

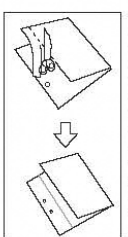
諸行無常の感慨で源氏に滅ぼされた平家への思いから詠んだものと考えます。律令政治から武家政治に、日本の中世の始まりです。鎌倉時代の歴史に出てくる地名の多くが現在の栄区内の町名に引継がれているのは興味深いことです。

證菩提寺は、上郷市民の森の麓、いたち川沿いにあり、神奈中バス停「稲荷森」で下車3分程です。證菩提寺には、阿弥陀三尊像(仏師定朝「じょうちょう」の仏像様式・定朝様)鎌倉仏の阿弥陀像など拝観は予約が必要です。この機会に、いたち川散策と歴史探訪はいかがでしょうか。

(うめおきな)

《参考・出典》「鎌倉幕府の兵站基地山之内庄本郷」

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



発行年月

2022年9月

通刊 89 号

発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19 TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

編集協力：栄土木事務所下水道・公園係 TEL 045-895-1411 FAX 45-895-1421

「いたち川の水源地」市民の森の紹介 第3弾!!

上郷市民の森は、区役所よりいたち川の川辺の道を歩いて、約1.5km進んだ、住宅地にぽつりと残ったかわいい小高い丘の森です。愛護会の定期的パトロールと上郷森の会の人たちによって管理されています。



上郷市民の森

上郷市民の森は、前号で紹介した飯島市民の森の指定に遅れること5日の1972年4月10日に開園した市民の森で面積は約5haと小さな森ですが大変変化にとんだ地形で急坂を登りきると頂上は平らな広場から、箱根や丹沢の山並みと、富士山、円海山に広がる市民の森を眺めることができます。

環状4号線沿いのバス停（本郷車庫前）周辺は、いたち川の“石原の水辺”が広がっており、その散策路には、アジサイに囲まれその川沿いにはつつじの群落を見ることができます。市民の森に入ると愛護会の人たちによる植林されたモミジの林があり、進んでいくとそこには一抱えもある桜の木（大島さくら）があり、御神木として地元の人に守られています。登りきると平らな“清兵衛広場”があり、西側には展望台があります。その先100m位進むと“見晴台”は行き止まりとなっています。戻って降りて行くと竹林の先には、水路沿いに“みずき広場”があり、トイレ休憩ができます。

清兵衛広場

丘の上平らな明るい広場で、春にはいろいろな種類の野草があることに驚きます。紹介すると、春の七草の大根、カブ、のほかはほとんど採取することが出来ます。特に4月初旬の“シラユキゲシ”の白い花の群落は見事なものです。“シラユキゲシ”は中国の原産地ですが、ここにどうして群落地ができたのかわかりません。

展望台

木造で作られた展望台からは富士山を正面に見ることが出来夕日の景色は大変美しく、春と秋にはダイヤモンド富士を撮影することができます。

見晴台

行きどまりにある見晴台からは、下を見ると日枝神社、南東方向には横浜自然観察の森や円海山を眺めることができます。

みずき広場

愛護会の人たちの集合、休憩する外作業場として維持管理する道具などを保管している場所です。夏休みには子供たちが樹木の管理のための伐採方法や竹細工等を体験している場所で、毎年大勢の子供たちが参加して夏休みの自由研究を行う場所として親しまれています。

石原の水辺

いたち川は、治水を兼ねた遊水効果をあげる場所として3か所の水辺広場が設けられています。“稻荷森の水辺”“中坊の水辺”“石原の水辺”が現在完成している場所で人が水に親しめるように手に触れられるように設計されています。

アジサイの道

愛護会の人たちが石原橋から市民の森の登り口までの散策路の両側に数種類のアジサイを植栽し通る人の目を楽しませています。

編集後記

地球温暖化や新型コロナ等自然現象での悩みが絶えませんが、せめても身近な自然をいたち川で感じてください。皆様の思い出の川体験やご感想などをお寄せ下さい。 (水・人・子)

もう一つの川は JR 寒川駅前を通過して小出川に流れ出る新川があり、この二つの河川で釣りをしたり、泳いだりして子供たちの遊び場となっていました。当時は食料難の時代で、我が家の家族は母親一人が働いていたので想像以上の貧困家庭でしたので生活をいかにも助けられるか兄弟で話し合いをして、川や山林には、遊びだけでなく、食料を調達するために魚釣りや野草の採取をしました。春は夏場はフナ、ウナギやオイカワなどの魚を、野草は川の土手で、ノビル、ツクシ、フキ、セリ、ヨメナ、イタドリ、スイパ、ノカンゾウを山林ではウド、ウコギ、タラノメ、ニワドコ、ゼンマイ、ワラビ等、秋は冬の時期はヤマノイモ、ムカゴ、クノミ、クイモ、等で長期保存をするために乾燥したり、塩漬けなどいろいろ工夫した記憶があります。現在では小出川を恋出川と言いながらボランティア活動をしていることを知り、うれしく思っています。

私はいたち川を散歩すると野草を見ては昔の故郷を思い出して、川や山林によって生きる術を学んだ事に感謝しています。 (水・人・子)

この町には、私が東京で生まれた直後に疎開した先が寒川町でした。三人の兄弟と母親で生活をしたわけですが、居住地は小出川に近くの集落で私の記憶は小学校に入学した後で、北側には林が続くその東側に水田、小出川があり、上流部の町境には相模川からの農業用水路がその川を横断する形で流れています。その水路の水は時間によって放水を小出川に流す構造になっており、現在はその農業水路は延長され横浜の小雀浄水場に水を供給しています。



ふるさと川と山林

故郷を離れてから約50年になりますが、特に離れている訳ではなく神奈川県内で、JR相模線で茅ヶ崎から三つ目が寒川です。

高座郡寒川町は、一級河川（相模川、小出川）に挟まれた地域で南西部は水田地帯、北東部は丘陵地帯からなる農村地帯の町です。中心部には相模の国一之宮寒川神社という歴史を持つ神社があります。石器時代から古墳時代までの多くの遺跡もあり、鎌倉時代には、NHKドラマの「鎌倉殿の13人」の一人である梶原景時、江戸時代には名奉行の大岡忠相、江戸幕府の老中田沼意次の所領であったことが記されています。穀倉地帯として栄えてきたように思えます。梶原屋敷跡は現在保存され見学することが出来ます。大岡忠相の墓は小出川沿いの寺院にまつられています。